

連濁

連濁とは、複合語で後部の最初の音が濁音化する現象である。

例： 汽車（きしゃ） → 夜汽車（よぎしゃ）
菓子（かし） → 和菓子（わがし）
顔（かお） → 横顔（よこがお）
発（はつ） → 出発（しゅっぱつ）

1. 漢語や外来語では起こりにくく、和語で起こりやすい。外来語であっても、日本語化した語であれば連濁することもある。 例：いろはガルタ、雨合羽
2. 後部に既に濁音があると連濁しづらい。 例：春風
3. アクセントによって連濁の有無が変わることがある。
例：森田、柴田、山田、福田
4. 地域によって変わることもある。 例：山崎（東：やまざき、西：やまさき）
5. 前後が、並列な関係か、修飾する関係かによって変わることがある。
例：山川（やまかわ、やまがわ）
6. 前部が目的語になっている場合連濁しない。 例：パン切り
ただし、後部が3拍以上の場合には連濁する。 例：人通り
7. 「～きる」「～かける」「～こむ」「～さす」は連濁しない。 例：通りかかる、着替える

注)「着替える」は、元は「きかえる」と読んでいた。

但し、名詞化すると連濁する。 例：通りがかり、着替え

8. 同音の他の名詞と区別するために連濁しない場合もある。
例：①ホタテ貝、日本海 ②明け方、開け方 ③枠組み、水汲み

参考) 同じ漢字で読みが二つあるものの例

重複（ジュウフク、チョウフク） 求道（キュウドウ、グドウ）
身命（シンメイ、シンミョウ） 万華鏡（バンカキョウ、マンゲキョウ）

上記四例は、読みが二種類あるだけで意味は全く同じである。

今日（こんにち、キョウ）
市場（いちば、シジョウ）
明日（あした、ミョウニチ）

上記三例は、意味またはニュアンスが若干異なる。